

埼玉県南部、武蔵野の美しい雑木林と、整然と区画された畑を残す人口約 3.8 万人の町。
長期にわたって女性議員比率 30%以上を維持しており、なんと、直近の選挙では県内で唯一 50%を超えた。女性議員の存在が当たり前の議会で行われてきたことと、女性議員比率の高さがもたらす影響を探る。

「やれることからやってみよう」 の精神で進めた議会改革

三芳町では、2007 年改選後から、議会改革に着手。当時 3 期目を務めていた内藤美佐子議長によれば、その時、町議にトップ当選した現在の林伊佐雄町長をはじめ、様々な課題意識を持った議員が当選して顔ぶれが変わり、議会を盛り上げる機運が醸成されたという。

「やれることからやってみよう」を合言葉に、夜間議会、休日議会などを開始。2010 年には、全国の都道府県・市区町村の中で 101 番目となる、三芳町議会基本条例を制定。本当に実施できることを盛り込んだ議会基本条例を作るべく、やりながら作った経緯がある。これに併せて、議員政治倫理条例も制定。同条例には、人権侵害の恐れのある行為の禁止、いわゆるハラスメント対策を盛り込んだ。どちらも協議を重ね、全会一致で可決した。

また、2021 年の「標準会議規則」改正を受けて、議会の運営規則の中に、病気のほか、育児や介護を欠席事由として認める規定を盛り込んで



左から三芳町議会 内藤議長、細谷副議長、
三芳町議会事務局局長 郡司氏、
次長 小林氏

お話を伺った皆様（敬称略）

*肩書は
ヒアリング当時

三芳町議会 議長：	内藤 美佐子
副議長：	細谷 光弘
三芳町議会事務局 局長：	郡司 道行
次長：	小林 忠之

おり、全国町村議会議長会や国から示された提案等があれば、すぐに議会運営委員会において是々非々で検討し、良いと判断したものについては、即応するようにしている。

コロナ禍でオンライン会議を導入。 「まずはやってみよう」の精神はここにも

「やれることからやってみよう」の精神はコロナ禍にも発揮された。密を回避しながらも議会機能を止めないために、オンライン会議の導入が検討された際、大きな反対は起こらなかった。始めは、議員個人のパソコンやスマートフォンなどを利用して、全員協議会で Zoom を試行し、その導入を決めた。

導入に当たっては、通信環境をどうするか、自宅以外から参加して良いか、どの委員会で導入するかなど様々な検討は行ったものの、あえて細かな制約は設けず、スピーディーな運用に重きをおいた。『「まずはやってみよう、だめだったら変えればいい』という雰囲気が三芳町議会にはあるので、比較的新しいことをやりやすいのではないかと議会事務局次長の小林氏は話す。

これまでにオンライン委員会を 11 回実施した。

三芳町議会では、原則は対面としつつ、オンラインも併用する形式をとっている。オンライン委員会開催の要件として、感染症や、災害等を規定しているほか、議員本人の体調不良や家族の体調不良などを理由に利用した例もあり、柔軟な活用を認めている。機器の操作に不慣れな高齢の議員などには議会事務局が手厚くサポートすることで、大きな問題は起こっていない。

コロナ禍でのオンライン視察も複数回実施した。視察先の自治体もオンライン環境が整っていて、スムーズであったという。「視察や研修はオンラインでも十分できるし、時間や費用の節約にもつながる」と細谷副議長は積極的なオンラインの活用を勧める。災害時などいざという時に議会機能を止めないためにも、日頃からオンライン会議に慣れておくことは大切だという。

対話重視の議会報告会に多様な人々の参加を

議会改革の一環として、住民に開かれた議会を実現するため、2009 年頃から新たに議会報告会を導入した。議会報告会は、町内3カ所で実施しており、人口最多の地域には議員全員が参加する。議員からの議会報告だけでなく、住民の意見にも耳を傾ける場として、双方向のコミュニケーションを重視している。また、議会報告会の内容は、議会だよりへの掲載や、議員の一般質問へも活用されており、住民の声が議会に届く仕組みとなっている。

現在は、「ふれあい座談会」に名称を変更し、ワークショップ形式で住民と議員がより近い距離で、深く対話できるように工夫するなど、議会広報広聴常任委員会を中心に改良を重ねている。コロナ後には、子育て世代の参加を促すことを目的として、会場の一角に子どもが遊べるキッズスペース

を設置するなど、初めての試みを実施した。多様な層の住民参加を促すことで、より開かれた議会を目指しており、ここにも新しいことを積極的に取り入れる姿勢がうかがえる。

ハラスメント対策も柔軟に実施。町村議会議長会の研修機会も上手く活用

三芳町が参加する入間郡町村議会議長会では、年1回全体研修を実施している。研修テーマの選定に当たっては、同議長会の所属議長が3つの構成議会に対しアンケートを実施する。三芳町議会では、2023 年選挙後に新人議員が増えたこともあり、「ハラスメント研修」を希望すると回答した。それにより、2023 年 11 月、同議長会で初めて、ハラスメント防止をテーマとした研修の開催に至った。

その内容は、議員自身がハラスメントをしないよう心構えを学ぶもので、内藤議長は「議員は権力があるから、言葉も態度も、気を付けなければならない。そういう心得は、男女関係なく議員のみなさんに分かってもらいたい」と話す。ノウハウに欠けるため、町単独でハラスメント防止研修を実施することは難しくても、近隣自治体と共同で実施することで、講師手配や経費の負担を軽減し、時勢に応じた研修を行うことが可能となった。

また、議員政治倫理条例には、議員の地位を利用したハラスメント防止を明記し、議員改選後には、町議会基本条例と合わせた勉強会を議員同士で必ず実施するなど、ハラスメントに関する意識啓発が定期的に行われている。

2023 年選挙時には、こどもがいる女性議員からの相談を受けて、プライバシー保護措置を導入した。議員ホームページでの議員個人の自宅住所、電話番号等の記載の可否について選択制と

するもので、議会広報広聴常任委員会で協議の上、議員の意思を尊重して自由度高く運用することとしたとのこと。こうした対応にも、議員から持ち寄られた個別課題を議会全体の課題として受け止め、組織として対策を講じようとする、三芳町議会の柔軟な姿勢が垣間見える。

30 年近く続く女性議員増加の連鎖

内藤議長が初当選した1999年時点で、女性は20分の6人(30%)と既に女性議員比率は高かった。2000年代に入ってから30%台を維持し、2023年の選挙では県内で唯一50%を達成して注目を浴びた。

現在7期目を務める内藤議長は、女性議員が増える「連鎖が起きている」と感じている。

自身が立候補を決めたとき、同じ会派に所属する女性議員がいたことは大変心強かったという。2度の議長を務める中で、女性の議長はまだ珍しく注目されることが多かった。「重鎮の男性がやるものだと思っていた」「あなたが議長になるっていうのは、順番制なの？」と聞かれたこともあったという。そうしたステレオタイプのイメージを払拭し、女性が前に出て活躍する姿を見せることで、「あの人がやっているなら私もやってみよう」と思ってもらいたいと、内藤議長は語る。

特定の政党から声を掛けられて立候補するケースのほかにも、議会モニター制度に参加した女性が新たに議員になったようなケースも出ている。町を変えたいという思いを持っている人が、議会報告会や議会傍聴に参加し、またそうした人が選挙に出やすくなる、そのような連鎖が続けば良いと考えている。

「いろんな人がいるのが議会」多様性のある議会の実現に向けて、さらに参画しやすい議会づくりを

他議会からの視察受入れの際、三芳町議会は、明るい印象を受けたと評されることが多いが、もともと風通しがよく、議論が活発な議会である、と議員も議会事務局職員も口をそろえる。「会派は多いが、話しやすく協議事項も出しやすい」

議会では、毎回、議員一人一人が一般質問を行い、意見を排除することなく、丁寧に議論を重ねている。会派によっては、女性を含め新人議員のために先輩議員が一般質問の出し方などを教える機会を設けているなど、新人の受入態勢も整えている。

新人の女性議員からは子育てや学校に関する話題や、ヤングケアラーなどタイムリーな話題が提供されており、新しい風が吹き込まれている。

「いろんな方がいるのが議会で、いろんな意見が出る方がよい。男女関係なく一人の議員としてやっていかなければならない」と内藤議長は話す。長らく女性議員がいることが当たり前になっている議会では、男女関係なく、若者や子育て世代、働き盛りの世代など多様な立場の人が参画しやすい議会に向け、今日も改革が進められている。



三芳町議会 内藤議長(右)、細谷副議長(左)

オンライン委員会

- 取組主体：議会、議会事務局（全4名）
- 取組時期：2021年4月から現在
- 必要機材：Zoom ライセンス、マイク
- 成果・実績：オンラインによる委員会開催や視察の実施

STEP 01

課題発見
どうやって
気づいた？

コロナ禍での気づき、予期せぬ事態への備えの重要性を確認

- ・コロナ禍において、感染防止のための議員の登庁ガイドラインを作成。密を回避しながらも議会機能を止めない重要性を確認。

オンラインでの会議方法の検討、規則の確認

- ・委員会のオンライン開催、対面を原則としたハイブリッド形式での会議運営を検討。
- ・「やれることからやってみよう」の精神で、オンライン導入前の2020年10月に全員協議会にてZoomを試行。議員個人のパソコンやスマートフォンを活用して実施。導入に向け細かな規定は設けず、運用の中で対応することに。
- ・議会事務局によるZoomライセンス取得、マイク等通信環境の整備。
- ・オンラインに不慣れな議員に対しては、議会事務局がサポート。

STEP 02

検討・準備
どうやって
進めた？

STEP 03

実施
やってみよう！



三芳町議会委員会条例の改正(2021.3)

- ・委員会をオンライン会議で開催できるよう規定を改正。開催要件として、感染症と災害等を盛り込み。

委員会のオンライン開催(11回)

- ・対面とオンラインのハイブリッド開催。
- ・議員本人の体調不良のほか、家族の体調不良でもオンライン参加可能へ。
- ・議員全員にタブレットを配布し、完全にペーパーレス化。

視察のオンライン実施(5回、秦野市、守谷市等)

- ・オンラインのみ、あるいは対面とオンラインのハイブリッド開催。
- ・視察に要する時間や費用の節約に貢献。

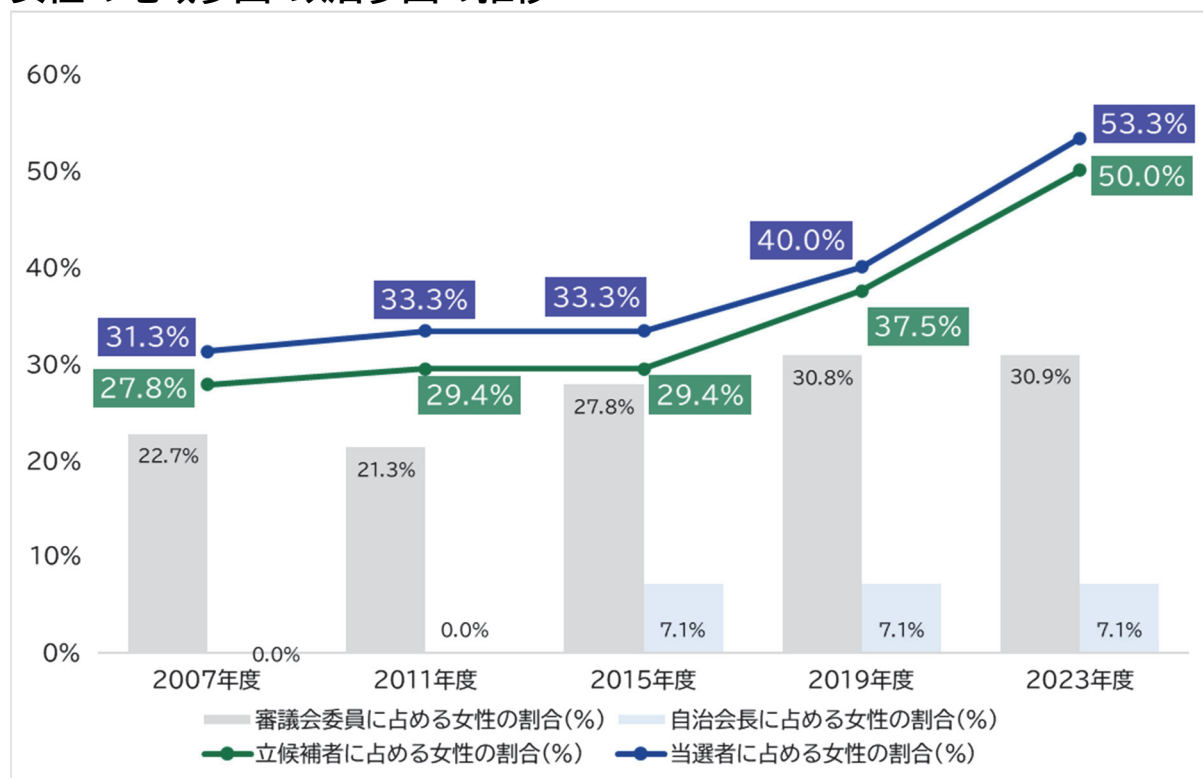
やってみて、ダメなら変える。

- ・委員会は対面を基本としつつ、オンライン開催を併用。オンラインを利用した会議の定期的な実施により、形骸化を予防。
- ・視察はオンライン開催も併用し、効率化へ。

STEP 04

今後
この先の展望は？

女性の地域参画・政治参画の推移



出所：アンケート回答、内閣府ウェブサイト「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況（都道府県・政令指定都市編、市区町村編）」（各年度）、選挙報道情報を参照し本調査研究の調査チーム作成

《三芳町基本情報》

総人口：37,370人（2024年3月31日）

男性：18,566人

女性：18,804人

世帯数：16,977世帯

地 勢：総面積約 15.33 km²、武蔵野台地の北東部に位置し、東京近郊の緑のオアシスとなっている。

出所：三芳町ウェブサイト



参考情報

・三芳町議会：

<https://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/gikai/>

・議会改革の取り組み：

<https://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/gikai/torikumi.html>